

実践研究報告

「学びの集大成としての修学旅行」 －学校教育全体を通して心を育てる－

蒲郡市立三谷中学校

校長 尾 身 好 司

教諭 倉 橋 智 久

I はじめに

- 1 本校の概要
- 2 本校の教育
 - (1) 教育目標
 - (2) 教育目標に迫るための教育活動
- 3 現3年生のこれまでの取り組み
 - (1) 1年生時の取り組み
 - ① 防災キャンプ
 - ② 福祉講演会・福祉施設訪問
 - (2) 2年生時の取り組み
 - ① 自然教室
 - ② マナー講座
 - ③ 職場体験学習
 - ④ 伝統文化にふれる
 - (3) 毎年行う取り組み
 - ① 地域ふれあい活動
 - ② 大島清掃
 - ③ 体験的活動を通して道徳性を掘り起こす活動
 - ④ 縦割り活動

II 平成30年度の実践

- 1 修学旅行のねらい
- 2 行程
- 3 事前の取り組み
 - (1) ねらいを実現するための実行委員会の取り組み
 - ① 組織作り
 - ② スローガン作り
 - ③ ルール作り
 - ④ 行程の決定
 - ⑤ 班の編制
 - ⑥ 修学旅行中の学年運営
- 4 修学旅行の実際の取り組み
 - (1) 出発式
 - (2) 電車内・新幹線の車内
 - (3) 国会議事堂
 - (4) 日光東照宮・華厳の滝
 - (5) バス内での様子
 - (6) 小西ホテル・東京ベイ舞浜ホテル
 - (7) コース別分散学習
 - (8) 学級別分散学習
 - (9) ディズニーシー
 - (10) 解散式
- 5 事後の取り組み
 - (1) コース別分散学習まとめ
 - (2) 修学旅行報告会

III おわりに

「学びの集大成としての修学旅行」

－学校教育全体を通して心を育てる－

愛知県蒲郡市立三谷中学校

I はじめに

1 本校の概要

蒲郡市は、三河湾の北東部に位置し、古くは繊維産業で栄えるとともに、漁業や観光業にも力を入れてきた。山と海に囲まれた自然豊かな地域であり、気候も温暖でミカンのハウス栽培などでも有名である。繊維産業や漁業の衰退でかつての賑わいはなくなったものの、ラグーナテンボスの誘致や国道23号線バイパスを利用することで新しい町づくりを目指している。人口は、8万人を有し、市内7中学校に、約2,100名の生徒が在籍している。

三谷中学校は、市内東部の三谷温泉で有名な丘陵地帯の中腹にある。漁業で開かれた町であるとともに江戸時代から続く三谷祭でもよく知られている。生徒数は、295名、学級数は12学級（通常学級9、特別支援学級3）で、市内では中程度の規模である。人懐っこく元気な生徒が多く、何にでも素直に反応しようとすると同時に、他者を温かく受け入れるやさしい心をもつ生徒が多い。全体的に穏やかで落ち着いた学校生活を送れており、縦割り活動を取り入れたことで、学年が上になるほど後輩の手本となるように動くことができる。学校を囲む環境は、町をあげての三谷祭がある関係で、地域の人同士のつながりが深く、学校を大事にするという土壌もしっかりとしており、地域に助けられることも多い。

2 本校の教育

（1）教育目標

校訓

独立独歩

本校の教育目標は、校訓“独立独歩”のもと、『よりよい未来社会の形成者として心豊かでたくましい生き方のできる三谷中生を育成する』であり、「賢く・仲良く・たくましく」をスローガンに、知（確かな学力）・徳（豊かな心情）・体（たくましい体力）の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成をめざしている。

（2）教育目標に迫るための教育活動

本校に限らず、どの学校でも教育目標に迫るためにすべての教育活動が営まれる。確かな学力を育成するための教科指導、道徳教育、特別活動、キャリア教育、総合的な学習、地域との連携・交流など年間計画をたて教育目標の実現に向けて取り組んでいる。

本校では、宿泊を伴う旅行的行事については中学校入学以来積み上げてきた学びの集大成として位置づけ、行事で見せる生徒の姿からそれまでの学びを評価している。2年生での自然教室、3年生での修学旅行がそれにあたる。

現在本校は、平成28年度より3年間、市教育委員会委嘱による学習指導研究を行っている。

校訓 「 独立独歩 」

教育目標

よりよい未来社会の形成者として心豊
かでたくましい生き方のできる生徒

知（確かな学力）・徳（豊かな心情）・体（たくましい体力）の調和のとれた人間性豊かな生徒

スローガン『賢く・仲良く・たくましく』

生徒と先生が一丸となって
元気で楽しく笑いのある三
谷中学校を築く

す
べ
て
の
教
育
活
動

生徒一人ひとりが主役とな
り、明るい活力に満ちた学校
づくりを推進する

学習指導要領の趣旨を
ふまえ、基礎・基本の定
着をはかり確かな学力を
育成する

自立的かつ自律的な心を
養い、主体的に学ぶ生徒の
育成に努める

地域・保護者と連携し、
信頼され愛される開かれ
た学校づくりを進める

重 点 努 力 目 標

授業を大切にする

地域の教育力を大切にする

業務改善マネジ
メントの実現に
取り組み、新たな
視点で学校経営
に参画する

心を大切にする

安全・安心な学校にする

平成31年度よりの中学校道徳の教科化をふまえた道徳での研究である。本年度の3年生は、研究指定を受けて3年目の生徒である。そのため、本年度は、特に道徳教育で身につけた道徳的価値観の高まりにも重点を置き、心の成長について注目した修学旅行であった。

3 現3年生のこれまでの取り組み

(1) 1年生時の取り組み

① 防災キャンプ

体育館を疑似避難所にみたくて避難所生活の実体験をするとともに防災に関する講習・体験をすることで防災意識を高め、避難所生活において中学生でも地域に貢献できることを学ぶ。防災キャンプ本番は、「けじめの力」「学ぶ力」「考えて行動する力」の三つの力をテーマに行った。入学して間もない1年生を対象にしていることから、集団生活をする上での規律や生活マナー、仲間を知り協力することの大切さを学ぶことができた。生徒は、「夜の集いではファイヤーをクラス全員で囲んで、普段なかなか言えていなかった感謝の気持ちを伝え合いました。」「防災キャンプを通してあたり前のことの大切さ、仲間がいることのあたたかさ、



資料1 防災キャンプの様子

楽しさをあらためて気付くことができました。」と語り、学年・学級の結びつきをより深くすることができた。

② 福祉講演会・福祉施設訪問

福祉講演会・・・障害がありながらも市職員として立派に働いてみえる方を招き、体験談から福祉とは何か、福祉を実行するためにはどうすればいいのかなどを話していただいた。講演を終えて、福祉とは、特別なことではなく、みんなが素直に勇気を出して人を助ける心をもつことによって簡単にできるものだという認識をもち、「福祉は、続けなくては意味がない。」「バリアは、

僕たちの力でなくしていくことができる。」という感想をもつなど福祉に対する意識を高めることができた。生徒は、「みんなの迷いを捨てる」「はずかしがらない」など福祉の実行に大切な8つの挑戦を学び、日常生活の中でも勇気を出してやってみようと努力した。

福祉施設訪問・・・学年全体でクラスごとに福祉施設を訪問した。施設では、お年寄りと話をしたり、いっしょにゲームをして楽しんだりして交流を楽しんだ。また、クラスごとに出し物を用意してお年寄りの前で披露した。生徒は、準備から当日の運営まで生き生きと活動することができた。また、実際にお年寄りとおふれあうことで、高齢者の気持ちになって考え行動することの大切さやお年寄りの反応から福祉に携わることの喜びも感じ取ることができた。総合的な学習の一環としての活動を通して、他者にやさしく接し、お互いに助け合っていこうとする気持ちを養うことができ、福祉に対する学びを深めることができた。



資料2 福祉に大切なこと



資料3 施設入所者との交流

(2) 2年生時の取り組み

① 自然教室

年度当初、生徒自らが「愛をもって、自分も仲間も大切にできる学年にしたい」という目標を掲げ、『Challengers ～挑戦しよう 自分の限界～』のスローガンのもと、よりよい自然教室、よりよい学年集団にしようと生徒同士で意識を高め合いながら活動した。特に、企画運営の活動を通して、自主的で計画的な態度を育てるとともに、仲間と協力する



資料4 ルールを話し合う生徒

態度を身につけることと、集団生活を通して、集団の規律や秩序について学び、社会の一員としてのマナーを身につけることに重点をおいた。

一人ひとりが部局に所属し、責任をもって自分の役割を果たすことで人のために役立つ喜びや達成感を味わうことができた。全員が所属する部局を束ねる実行委員を中心にして作ったルールをもとに、各部局や各班で話し合いを積み重ねることで、生徒たちは自分たちで行事を成功させることができたという達成感と充実感を味わうことができた。さらに、家族からの手紙で愛されている自分を改めて認識し、素直な気持ちで感謝を返事にしたため家族愛を体感することができた。

学年としてのまとまりが高まっただけでなく、規律正しい生活や宿泊施設や体験学習で出会った人たちと気持ちよい交流をすることができ施設所員をはじめ多くの方々から清々しく温かい生徒ですねとお褒めの言葉をいただいた。



資料5 家族からの手紙を読み返事を書く生徒



資料6 体験活動で伝統文化にふれる生徒

② マナー講座

毎年、2年生を対象にして、接遇インストラクターの方をお迎えして「マナー講座」を開いている。職場体験学習を控えている時期に行うことで、意識付けしやすいようにしている。講座では、マナーは、自分だけがいいと思っても駄目で、相手を意識したものであることを確認し、挨拶・表情・身だしなみ・言葉遣い・態度について、細かな注意点を具体的に解説しながらわかりやすく説明していただいた。好印象を



資料7 おじぎの練習

与える笑顔や表情、姿勢、言葉遣い、振る舞いを実際に体験しながら教えてくれることで、生徒も飲み込みが早かった。これからの人間関係づくりに役立てることができると同時に、職場体験学習だけでなく、将来にも役立つ内容であった。

③ 職場体験学習



資料8 職場体験のようす（自動車整備・トリマー・和食店）

様々な職業への関心を深め、自分の将来に関心をもち、夢や目標の実現に向けて充実した生活を送ろうとする生徒を育てるために職場体験学習を行った。自分自身の興味・関心によって決めた50の事業所で4日間を過ごした。実際に働くことでしか得られない貴重なことを学び、仕事の厳しさや生きがいなど、将来についてじっくり考えるよい機会となった。生徒たちは、「毎日笑顔で過ごしたり、人に思いやりをもって接するだけでも生活が変わると思うので、学んだことを忘れずに日常に生かしていきたいです。」などと学んだことを今の生活に役立てようとしたこともできた。また、これまでの中学校生活で身につけた何事にも真剣に取り組む姿勢や挨拶・返事などを多くの事業所の方から褒めていただいた。

④ 伝統文化にふれる



資料9 箏曲と御殿舞

2年生の総合的な学習の時間では、テーマを「職業」とする学習と地域の伝統文化にふれる選択総合を行っている。この学習では、地域に伝わる伝統芸能「御殿舞」、江戸時代から行われている三谷祭の歴史を調べる、三谷祭の絵を描く、地域のためにボランティア、茶道、箏曲などを選択して学ぶ。地域から講師の先生を招き地元を学ぶことで、地域愛を育むことができている。

三谷祭を調べた結果、人口減などによる祭参加者減少で祭りの存続が危ぶまれていることから宣伝活動など様々な対策を行っている地域の方の存在を知り、自分たちの町を愛し、誇りをもつ人を増やすことが「町づくり」で、町の誇りを他の地域の人に広めることが「町おこし」だと自分と地域の関係について深く考える生徒もいた。

（３）毎年行う取り組み

① 地域ふれあい活動

蒲郡市では、昭和４１年に「青少年を守る都市宣言」を出し、家庭・学校・地域社会が一体となって、毎年、青少年健全育成市民運動を展開している。昭和５６年には、各中学校区に青少年健全育成協議会ができ、非行防止を中心に地域の問題を話し合う「ミニ集会」が行われるようになった。その後、子どもたちの社会体験・経験不足が叫ばれるようになると平成７年頃から、地域役職者が中心となり、子どもから大人まで幅広い層が参加して清掃活動などの実践活動を行う「地域ふれあい活動」が今日まで行われている。「地域ふれあい活動」への参加意欲を高めるために、企画段階から中学生を取り組む地区が増えている。地域で活躍する中学生の姿を見て、小学生は次代の自分を思い描くとともに、地域の大人たちは子どもたちを見直す機会ともなっている。



資料 10 企画運営をする生徒

「地域ふれあい活動」には、基本的に全員が参加しており、生徒は、地域の人々との交流を深めるとともに、企画運営に携わることで地域の中での自己有用感を感じ生き生きと活動している。また、地域に関心をもつとともに、地域の中での自分の役割を考えるようになった。さらに、長期に渡って継続している活動であるため、中学生の時に経験したことのある生徒が親の世代となっており、活動の意義がうまく継承されている。

② 大島清掃

三河湾に浮かぶ三河大島は、三谷町の財産区である。昭和６１年度より、財産区としての三河大島を見直し、社会に奉仕する心や郷土愛を育てることを目的に生徒会が中心となり地域の方々や敬老会・ＰＴＡと協力して全校生徒で清掃活動をしている。生徒の保護者も参加している伝統的な行事で、地域の方々との交流が深まるとともに地域を知り考える機会となっている。また、清掃活動が終わった後は、学級ごとに和やかな雰囲気のもとで協力しながら海岸にサンドアートを制作している。



資料 11 海岸を清掃する生徒



資料 12 サンドアートのひとつ

③ 体験的活動を通して道徳性を掘り起こす活動

三谷中学校では、現職研究主題を『期待の種を蒔く』～共によりよく生きる道徳教育をめざして～として研究を進めている。目指す生徒像は「自ら目標をもって挑戦し、日々の生活に期待を見い出す生徒」であり、心のエネルギーが下がってしまった生徒に寄り添いながら道徳の授業を繰り返していくことで心に元気を取り戻していこうと実践をしている。また、道徳の授業だけでなく、特別活動や教科においても道徳性を高めるための体験的活動を開発し、道徳性を高めようとしている。

「一人でも掃除やっちゃおう週間」

ある期間、1学年で全校の清掃区域を分担し、1人で掃除する。清掃活動を1人だけで行うことで、清掃場所が自分に任された責任ある場所となり、社会奉仕の心を育む。また、それぞれの学年が担当することで社会連帯の精神を養う。

「話し合い生徒集会」

集団生活の向上や公正・公平について考え、話しあい方を身につけるために縦割りで行っている。昨年度は、生徒会執行部・委員長合同会議で3つのテーマが出され、生徒集会の前に、各学級でプレ生徒集会を行い自分の考えをもって集会に臨めるようにした。

3つのテーマ

○木曜日に清掃を行わない「気づき動く日」について、もっとたくさんの人が気づき動けるようにするにはどうしたらよいか。



資料 13 黙々と掃除をする生徒



資料 14 発言する生徒

○学校の図書室は閉まっていることが多いが、図書室を常時開放するためにはどんなルールが必要か。

○人権週間に関連して、いじめ問題についてどう考えるか。

生徒は、「自分たちのクラスではない意見や説明の仕方があって、とても参考になりました。」
「みんなで話しあってみて、自分で気づけなかったことや他の人の考え方などを知ることができました。」と満足することができたと振り返っていた。

こうした活動を繰り返し行い、話しあいの仕方を学ぶことで、道徳性が高まり、何でも話ができる雰囲気がつくられている。

④ 縦割り活動



資料 15 必死の形相で応援歌を歌う生徒

先輩としての自覚と責任感を醸成するとともに、後輩として将来のあるべき自分の姿を思い描くことができる。また、行事等の企画運営力を高め、仲間と協力し助け合う姿勢をもたせることができる。本校では、大声合戦・体育大会での応援合戦を中心に様々な縦割り活動を取り入れている。生徒は、自分たちの力で集団を動かしていくことに誇りをもち、中学校入学時から目指す先輩像に近づこうと努力することができ総合的に人間力を高めることに役立っている。



資料 16 後輩に教える 3 年生

Ⅱ 平成30年度の実践

1 修学旅行のねらい

学びの集大成としての修学旅行のねらいを以下のように設定した。

- ・日本の首都東京、及び世界文化遺産の日光東照宮の見学を通して、政治、産業、文化、歴史、自然の雄大さなどを実際に肌で感じる。
- ・規則正しい集団生活を通して、望ましい生活習慣、保健・安全について学ぶとともに、集団生活の楽しさを味わう。
- ・準備や当日の旅行を通して、自主的で計画的な学習態度を育てるとともに、友情や協力の大切さを学ぶ。

2 行程

上記ねらいを踏まえ、以下のような行程で修学旅行を実施した。

平成30年6月5日（火）～7日（木） 2泊3日 目的地：東京都内・日光周辺

———— JR - - - - - 新幹線 ===== バス - . - . - . - . その他

〈6月5日（火）〉

JR 三河三谷駅 ———— JR 豊橋駅 - - - - - JR 東京駅 ===== 国会議事堂 =====
8:07 発 8:22 着 8:47 発 10:10 着 11:00～12:10
===== 日光東照宮 ===== 華厳滝 ===== 奥日光 小西ホテル（泊）
14:45～16:20 16:50～17:20 18:00 頃

〈6月6日（水）〉

旅館 ===== 上野公園 - . - . - . - . 都内班別分散学習 - . - . - . - . 上野公園集合 =====
8:00 発 11:00 11:20～16:30 16:45
===== 学級別分散学習 ===== 東京ベイ舞浜ホテル（泊）
17:00～20:30 21:00 頃

〈6月7日（木）〉

ホテル - . - . - . - . 東京ディズニーシー - . - . - . - . JR 舞浜駅 ===== JR 東京駅 - - - - -
8:30 発 9:00～14:30 15:00 着 15:20 発 15:32 着 16:33 発
- - - - - JR 豊橋駅 ===== JR 三河三谷駅
17:57 着 18:31 発 18:40 着

3 事前の取り組み

(1) ねらいを実現するための実行委員会の取り組み

3年生全員が、修学旅行のねらいを意識して行動し、達成するために、各学級の級長、副級長のどちらか1名、各クラス男女2名の実行委員会を立ち上げ、計画を進めていった。主な活動内容は、組織作り、活動方針決め、修学旅行スローガンの決定、ルールや班・座席などの決め方の決定、修学旅行中の学年運営である。自分たちで修学旅行を作り上げ、主体的に行動できるようにしていくことを実行委員の目標とした。

① 組織作り

昨年度までの先輩の様子、2年生で行った自然教室のときの資料、修学旅行で行う活動をもとに、以下のような組織を立ち上げた。



修学旅行の運営がスムーズになるように考え、「しおり部局」「分散学習部局」「環境部局」「バスレク部局」の4つの部局をつくり、それぞれの委員の人数を決定した。2年生の時の自然教室では、全員がどこかの部局に参加し活動したが、作業や仕事の量を考え、必要最低限の部局の人員で活動することにした。また、実行委員長は、どの部局にも属さず、全体の活動を常に把握し、指示が出せるようにした。

② スローガン作り

修学旅行のねらいを達成し、学年として大きく成長するために、スローガンを作ることにした。実行委員で話し合い、

- ・どんな修学旅行にしたいか、何を大事にしたいかを聞く学年集会
- ・大事にしたいことを実行委員でさらに絞り込み、それをもとにしたスローガンアンケート

- ・アンケートから実行委員がスローガン候補を選び、全員で投票
- ・スローガン決定・発表の学年集会

という流れで行うことになった。

どんな修学旅行にしたいか、何を大事にしたいかの学年集会では、とても活発な話し合いが行われた。個人的な思いではなく、「この学年で行くから」「みんなが楽しく行く」と仲間のことを思いやった意見が多く、愛のあふれる集会となった。

実行委員会で話し合い、

- ・三谷中代表としてふさわしい行動をし、成長する
- ・みんなが笑顔で楽しむ

の2つを柱として、スローガンの案を考えてもらい、話し合いを経て、



資料 17 学年集会の様子

Everyone Smile

～3年間の集大成 三谷中生代表の自覚と責任～

修学旅行のしおりには、

みんなで決めたこのスローガンをもとに、この学年93人全員が笑顔になれる修学旅行にしていきましょう。三谷中の代表としてふさわしい行動をする。みんなが笑顔で楽しむ。この2つをこころがけていきましょう。

そして、学年スローガンである「愛言葉」も意識して、愛たくさんの修学旅行になるともっといいと思います。このメンバーでいける最初で最後の修学旅行なので、全員の心に残る最高の仲間と最高の修学旅行にしていましょう。この修学旅行を通して「三谷中史上最高の最高学年」に近づけるようにしましょう。

という実行委員長の言葉が示されていた。思いのこもったスローガンを決定することができた。

また、スローガンを達成するため、「愛ある行動をする」「時間を守る」「周りに気を配る」などのことを修学旅行に行く前から行動をしようと、実行委員を中心に呼びかけ、行動することができた。

③ ルール作り

実行委員会では、自分たちで修学旅行を作り上げるために、ルールや持ち物を検討していった。例年と同じように、と考えるのではなく、自分たちが修学旅行のスローガンを達成するためにはどうしたらいいのかということを常に念頭におき、お小遣い、服装、持ち物などのルールの案を作成した。

お小遣いと服装については、5月の日曜参観で学年集会を開き話し合い、その様子を保護者の

方にも参観していただいた。

お小遣いについては、実行委員から「お小遣い以前にこの修学旅行にお家の方が55,000円を出してくれていること、日程表の中で何にどれくらいお金を使うか計算した予算案をプリントにのせ、10,000円という提案で話し合いを行った。

「学びに行くのだから、5,000円で十分」「たくさんの人にお土産を買って、ありがとうを伝えたいから15,000円」「ディズニーの中で〇〇がいくらで、それを買うと足りない」などたくさんの意見が出された。最終的には、10,000円＋コース別分散学習の入場料や体験料、となった。

服装については、1日目は国会に行くので制服。2日目は分散学習で企業に行く人もいるため制服。3日目はディズニーということもあり私服という提案がされ、実行委員の提案理由が明確で納得できることもあり、すぐに決定された。私服のときのリュックや靴をどうするかで意見がわかれたが、荷物をなるべく増やさないという約束があったため、制服の時に使っているものを私服でも使用することになった。

保護者の方々が見守るなか、自分のことだけでなく、仲間や学年のことを考えた発言が多く出され、学年全体で修学旅行を成功させようという姿を見てもらうことができた。保護者の方からも、「みんなで一生懸命考えていることが伝わってきました。」「見に来た甲斐がありました。」というお言葉をいただくことができた。

④ 行程の決定

自分たちで作り上げた修学旅行にするために、本修学旅行では、ディズニーランドに行くか、ディズニーシーに行くかを実行委員を中心に生徒で話し合い考えさせることにした。

実行委員は、学年の廊下に掲示板を置き、ディズニーランド・シーのパフレットを掲示し、さらに何も書いてないホワイトボードを置き、自由に書き込みができるようにした。ホワイトボードはあっという間に書き込みでいっぱいになり、生徒の関心の高さがうかがえた。

このホワイトボードをもとに学年集会が開かれた。実行委員がランド派・シー派に意図的に別れプレゼンを行い、その後、全体で話し合った。「スリル系が多いシーの方が絶対に楽しい。」「ランドの方が夢の国感があるし、絶叫系が苦手な子もいる。」などの意見が出されたが、「スリル系アトラクションだけでなく、ゆっくり楽しめるスポットもたくさんあるシーはみんな楽しめる。」という意見が決め手となり、ディズニーシーへ行くことに決定した。



資料 18 ディズニー決定に向けた活動の様子

⑤ 班の編制

本修学旅行では、コース別分散学習で行動するコース別班と東京ディズニーシーで行動するディズニー班を分けて活動を行った。

コース別班は、実行委員の提案で、目的地別で3名～6名で編成されることになった。目的地は、東京でしか行けない場所、学べない場所という原則をもとに、行きたい場所アンケートを実施、それをもとに目的地を決定し、その一覧を作成した。その一覧から自分が学びたい場所を選び、そこを選んだ人達が同じ班になるという方法をとった。

自分の学びたいところに行くという目的があるため、その後の班ごとの行程決めもスムーズに行うことができた。

また、ディズニー班は、クラス関係なくこの学年の仲間と最高の笑顔を作りたいという実行委員の願いで、2名以上なら学年の誰となってもよいという方法をとった。

班を決めるとき、実行委員が学年全体を見て、一人になってしまいそうな子はいないか、一部の人だけが我慢するようなことになっていないか、みんなに声をかけながら確認していた。全員が笑顔になる修学旅行にしたいという実行委員の思いが行動に現れていた。

⑥ 修学旅行中の学年運営

本修学旅行中は、特別な場合を除き、実行委員が常に先頭に立ち、学年運営を行うことにした。出発式から解散式までを実行委員で分担し、それぞれが役割に責任をもって行動し、学年の全員が動けるようにするという目標をもち、修学旅行に臨んだ。

4 修学旅行の実際の取り組み

(1) 出発式

出発式は、全員が時間に余裕をもって遅れることなく集合することができた。実行委員は常に前に立ち、来た人から実行委員の指示に従って、静かに待つことができ、とてもよいスタートを切ることができた。学年93名全員が修学旅行に参加できたことがなによりよいことであった。校長先生からは「修学ということを姿で見せる場が修学旅行である」というお話をいただいた。また、実行委員長からは、「学年全員が笑顔になれる修学旅行にしたい」「三谷中の代表としての自覚と責任をもって行動してほしい」というスローガンにもあるねらいが話された。



資料 19 出発式の様子

(2) 電車内・新幹線の車内

電車内では一人一人が公共の場であることを意識することができ、迷惑にならないよう、声をかけ合うことができていた。

「Everyone Smile」の「みんな」には、自分たちだけでなく、まわりにいる人達も含まれていることをしっかりと意識できた



資料 20 新幹線内の様子

行動であった。新幹線に乗り込む隊形をつくる時に、場所の広さの問題で練習通りの動きができなかったが、実行委員を中心に臨機応変に対応することができた。実行委員の反省には「修学旅行の最初に、改めて大きな集団であることを考えて行動することが大切さであると気づくことができました。」とあり、実行委員の意識を高める機会ともなった。

（３）国会議事堂

国会議事堂では、地元の議員さんから「国会とはどういうところなのか」という説明を聞いた。その後の見学では、「本会議場ってテレビでよく見るやつだね」「教科書にも載っていたよね」と広く迫力のある本会議場に驚きを隠せない様子であった。また、生徒の感想には、「国会議事堂は、どこの部屋も内装が美しくて驚きました。国会議事堂は三年生が社会で習う、公民とかかわっているのも、とても良い勉強になりました。見学中は、みんな音を意識して行動することができました。」とあり、充実した学習の時間を過ごすことができた。



資料 21 国会見学の様子

（４）日光東照宮・華厳の滝

国会議事堂の見学の後、栃木県にある日光東照宮へ向かった。改修が終わったばかりの陽明門や有名な眠り猫などをガイドさんの説明を聞きながら見学した。生徒の感想には、「陽明門は白く輝いていて、本当に美しかったです。」「回廊にある眠り猫は、眠っているように見えて、実はいつでも飛びかかるような姿勢になっていて、家康公を守っていると言われているそうです。」と書かれており、自分の感想とともに、ガイドさんの話からもしっかりと学ぶことができていた。



華厳の滝の見学は少し肌寒く感じられた。水量が多く、94メートルの岩壁を水が落ちていく様子はものすごい迫力で、生徒の心にも残っているようであった。

どちらも有名な観光地であるので、たくさんの一般の方もいた。一般の方に道を譲る姿や、迷惑にならないように集合する姿が見られたことはよいことであった。



資料 22 日光見学の様子

（５）バス内での様子

バスの中では、バスレク部局を中心にバスレクを行った。似顔絵ゲームやドレミの歌ゲームなどの他に学級対抗のレクもあり、日光までの長い移動時間も楽しく過ごすことができた。誰かがカラオケしている時にはみんなで手拍子をするなど愛のある行動もみられ、一部の人たちだけで盛り上がるのではなく全員で盛り上がることもできた。バスの中でも、みんなの笑顔がたくさん見ら



資料 23 バスレクの様子

れ、バスの中でもスローガンである、「Everyone Smile」が達成できていた。

（６）小西ホテル・東京ベイ舞浜ホテル

修学旅行中に宿泊するホテルも大切な学びの場である。事前学習の中で、全員が笑顔になるためのホテルでの過ごし方や食事のルールなどの説明が実行委員からあったこともあり、感謝の気持ちを持ち、マナーよく過ごすことができた。部長会では、「実行委員以外の人からも呼びかけが聞こえた」という反省が出され、一人一人が意識して行動できていたことがわかった。

一日目に泊まった奥日光小西ホテルの感想には「小西ホテルでは、おいしい食事をいただき、天然温泉に入りました。部屋の仲間と一緒に過ごすことが多く、学校生活とは違った雰囲気楽しかったです。硫黄のにおいに包まれた温泉では、先生と一緒に入ったこともよい思い出です。」とあり、仲間と過ごす貴重な時間ともなったことがわかった。

二日目に宿泊した東京ベイ舞浜ホテルの感想には、「ホテル到着が９時過ぎでしたが、入浴、二日目の反省、次の日の準備、とスムーズに進め、１０時就寝を全員が守ることができました。朝食前の部屋チェックも時間のないなかで、予定時刻よりも早く全部屋が合格することができ、来た時よりもきれいにするという目標が達成できたと思います。三谷中で意識していた『時間を守る』『周りに気を配る』などしっかりとホテルで意識することができました。」とあり、みんなの笑顔のためにやるべきことを優先して動く事ができていた。

（７）コース別分散学習

目的地別に、２０の班に分かれてコース別分散学習を行った。事前学習で、目的地、班のテーマを決め、ガイドブックやパンフレット、インターネットを用いて行程を調べた。それぞれの班が、資料 26 のようなワークシートを使い、行程や時間、予算などの行動計画を入念に立てたことで、すべての班が時間に遅れることなく、コース別分散学習後に集合することができた。



資料 24 ホテル内の様子



資料 25 コース別分散学習の様子

「2組は、屋形船に乗りました。レインボーブリッジの下を通り、船からはフジテレビやスカイツリーなど様々な建物が見えました。スカイツリーには、他のクラスが行っていたので、私たちは船から手を振ったら見つけてくれました。屋形船の中では有志のステージでコントや、手品など披露してくれ盛り上がることができました。最後にはみんなでクラスの好きなところを発表し、あたたかい気持ちになりました。屋形船に乗っていた時間はあっという間でしたが、クラスの絆がすごく深まりました。」



資料 28 学級分散 2 組 屋形船の様子

「3組は、東京スカイツリーに行きました。まず、みんなで冬のエレベーターに乗り、展望デッキに行きました。東京の町、さらには神奈川、千葉の方も見わたすことができ、絶景でした。それから、一目で展望デッキからの眺望を見ることができる東京時空ナビは、とても迫力ある映像でした。夜は、カルネステーション銀座で食事をしました。たくさん食べて、たくさんしゃべって、たくさん笑って、みんなで楽しむことができました。この学級分散で、クラスの絆が一段と深まったと思います。」とあり、さまざまなグループで活動することが多い修学旅行の中で、学級の絆を深めるよい機会となった。



資料 29 学級分散 3 組 夕食の様子

(9) ディズニーシー

修学旅行最後の見学地は、ディズニーシー。アトラクション優先の班、友達とお揃いのものを買身につけている班、お土産重視の班など、それぞれの班が思い思いの行動をとり、充実した時間となった。

生徒の感想には、

「楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまいましたが、集合時間には、誰一人も遅れることなく集まれていてとても良かったです。時間への意識が高く、すばやい行動がとれ、充実したときが過ごせました。」

と楽しいだけで終わらせず、ここでも修学旅行のねらいを意識した行動がとれたことがわかる。



資料 30 ディズニーシーの様子

(10) 解散式

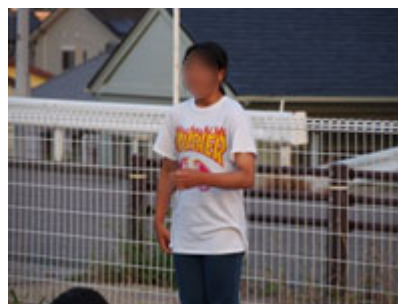
修学旅行の最後に行われた解散式。すべての行程を終えた生徒の顔はスローガン「Everyone Smile」の通り、晴れやかな笑顔であった。学びの集大成として充実したものであったことが伝わってきた。

実行委員長からの最後のあいさつは、

「修学旅行で、準備も含めて一番意識してきたことは、『みんなが笑顔になる』ということです。私たちは最高の修学旅行にするために、常にみんなのことを考えてきました。当日も、周りのことを考えた、愛ある行動がたくさん見られ、みんなが笑顔になることができていました。

最高の修学旅行をさらに意味のあるものにするために、これからもみんなが笑顔になれるように行動し、また、学年スローガンである『愛言葉』をたくさん使って、全員が笑顔で輝ける存在となれるようにしていきましょう。」という言葉であった。

ねらいやスローガンを準備のときから意識して行動できていたこと、実行委員だけでなく、学年全員で修学旅行を成功させようという機運を高めることができたこと、当日も「みんなの笑顔」「三谷中の代表」という2つの柱を忘れることなく行動し、それをみんながお互いに認め合えたことが、修学旅行の成功につながった。



資料 31 解散式の様子

5 事後の取り組み

(1) コース別分散学習まとめ

修学旅行のコース別分散学習で学んだことを1枚のリーフレットとしてまとめた。リーフレットをまとめることで、記録として残すことはもちろん、学んだことを再確認することや自分たちの成長を感じることをねらいとした。

Everyone Smile ～3年間の集大成 三谷中代表の自覚と責任～

2班 3年2組

班テーマ
「普段知らない科学とふれる」

行程
上野公園 飛
↓
風食
↓
リス・ピア
↓
上野公園着

コース別分散学習報告

メンバー
班長

見学地紹介
僕は、リス・ピアという理科と数学について学べるところに行きました。僕は、理科と数学が苦手なので、当日まで案外不安でしたが、修学旅行の中で1位2位を争うくらい楽しかったです。まず、全員にリスカバースコアという携帯情報端末を渡されました。展示のそばのボタンの対角線を近づけると、その展示に関する原理・法則や身近な事例について知れるというしくみで、理科や数学が意外と身近に存在しているというのを思いました。

理科や数学に関する様々な展示があり、ゲーム感覚で楽しみながら学ぶことができました。例えば、パネルで出た数や素数や割り方をして、素数以外の数や素数になるまで分解していく、消した数の合計を数という展示では素数ばかりで、コントローラーで、3色しかない色を元の3原色を利用して、色々な色でぬり絵をすることで元の3原色について学ぶというゲームがたくさんあって、本当にあっという間に時間が過ぎてしまいました。最後に集合写真を撮って、お別れです。7時間という不思議な掛けが合っていると教えてもらい、最後まで楽しんでいたことが嬉しかったです。このコース別分散学習で学んだことを生かし、楽しく理科や数学を学んでいけるといいです。




資料 32 コース別分散学習まとめのリーフレット

19

(2) 修学旅行報告会

本校では、毎年修学旅行後に学校集会の中で、修学旅行報告会を行っている。

3年生にとっては自分たちの修学旅行をもう一度振り返り、成果や課題を確認する場として、1, 2年生にとっては、自分たちの修学旅行に見通しがもてる場になることをねらっている。

報告会に向かう前には、実行委員長から「修学旅行の成長が報告者からだけでなく、3年生の姿で後輩に伝えられるような集会にしましょう。」という言葉があり、報告会を聞く3年生の姿もとても立派であった。

修学旅行の約1ヶ月後に行われた報告会であったが、もっと前のなつかしい思い出のように感じる生徒が多かった。

修学旅行後の日常生活でも、修学旅行でできていたことは続け、修学旅行で課題として残ったものは改善しようと実行委員中心に活動していたが、3年生にとって最後の部活動と夏の大会に向けて、気持ちが充実していたことが、そのような感覚にさせたと考える。

日常を一番大切にしながら、その時々大切にしたいことに全力を注ぐ三谷中生らしい感覚なのかもしれない。



資料 33 報告会の様子

Ⅲ おわりに

学びの集大成として、3つのねらいをもち、行われた修学旅行。事前から、事後の取り組みまで含め、ねらいを十分達成できた。

コース別分散学習や日光での東照宮や華厳の滝の見学を通して、首都東京の様子や世界文化遺産の歴史的価値、自然の雄大さを肌で感じる事ができた。また、実行委員を中心としてよりよい学年にしようとして常に意識し行動し、規則正しい集団生活、集団の中の自分を意識することができた。さらに、計画から運営までを生徒に任せ、教師が影から適切なサポートをして支えたことで、生徒の自主性を向上させることができた。

修学旅行に向けての取り組みについて、例年と大きく変わったことはない。これまでと同じように日常生活を大切にしながら、全職員・全校生徒が一丸となって学校生活を充実させようとしてきた。これからも、素晴らしい修学旅行を創り上げてくれるものと信じている。その中で、今年度の3年生は、市教育委員会委嘱による道徳の研究指定3年目にあたるのが大きかったと考えている。道徳の授業だけでなく、教育活動全体を通じて子どもたちの道徳性を高める実践をしてきた。その成果として、着実に心が成長したと実感している。学年が上がるにつれて、『賢く・仲良く・たくましく』なった生徒たちは、修学旅行のさまざまな活動での成功体験を経て、自信をつけることができた。そして、かけがえのない仲間と過ごした3日間は生徒たちの今後にとって大きな財産になったと考えている。今後は、修学旅行で学んだことを、日常生活の中で、自分の進路選択や人生設計につなげられるよう指導していきたい。